番　号	4	平成30年度公共事業事後評価調書	担当課名[農地保全課]

事業名	中山間地域総合整備事業	事業主体	静岡県
箇所名	中伊豆（なかいず）やすらぎ	市町名	伊豆市

事業概要

受益面積	７６．２ha	採択年度	平成１２年度	完了年度	当初	平成２３年度
					実績	平成２４年度

事業費	前回	１，４１８百万円（H22計変時）	実績	１，３６８百万円

事業量	農業用排水路　延長1,123m(8路線)、農道　延長2,630m(8路線) ほ場整備　面積1.6ha(1箇所)、集落道　延長570m(3路線) 集落排水　延長248m(2路線)、農村公園　2箇所、活性化施設　1箇所

事業の目的・必要性

本地域では、天城山系を源とする豊かな水の恵みを活かし世界農業遺産に認定された水わさびの栽培を始めとし水稲、露地野菜など多彩な農業が営まれてきた。しかし、農業者が高齢化し、農道が未整備な地域が多く、用水施設の老朽化により、荒廃農地の発生の懸念されていた。また、天城山系の豊かな水の恵みなど多くの地域資源がありながら、観光地伊豆にあって観光との連携が不十分であり、農道、水田の区画整理などの農業生産基盤整備や農村の魅力を情報発信する交流拠点、集落道路などの生活環境基盤整備が必要となっていた。

このため、農業生産力の強化と都市・農村交流による地域活性化を目指し”恵み豊かな水とやすらぎの郷づくり”をキャッチフレーズに、農業の生産力強化、担い手確保につながる農業生産基盤整備と新たな交流拠点機能を担う活性化施設、農村公園などの生活環境基盤を総合的に整備した。

事業の効果等

費用対効果分析結果		B／C	総費用	総便益	基準年
	前回計画変更(H22)	1.54	19.74 億円 （事業費：13.18億円 再整備費等：6.56億円）	30.40 億円 （食料安定供給確保効果：19.20億円 農村振興効果：6.71億円 多面的機能発揮効果：4.49億円）	平成21年
	事後	1.66	31.72 億円 （事業費：22.11億円 再整備費等：9.61億円）	52.73 億円 （食料安定供給確保効果：33.87億円 農村振興効果：11.44億円 多面的機能発揮効果：7.42億円）	平成29年

１）費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

・費用対効果分析における現在価値化の基準年がことなるため、総費用および総便益額が増加した。

２）事業効果の発現状況

＜食料安定供給確保効果＞

・ほ場整備により、各ほ場の区画形質が整形化され農道・用排水路とも接続し営農の省力化、汎用化が図られ生産性が向上した。

・走行経費節減効果：農道の整備により、ほ場から集出荷場への輸送時間の短縮

事業前：499時間/ha　→　事業後：38時間/ha（92%減）

※総労働時間（水稲・中規模）事業前:696時間/ha　→　事業後:235時間/ha（66%減）

＜農村振興効果＞

・生活環境改善効果　　：集落道の整備による、農村の日常生活における利便性・安全性の向上

・災害時の避難地確保効果：活性化施設、農村公園は災害時の避難者受け入れ施設としても機能することでの、地域住民の安心・安全の確保

＜多面的機能発揮効果＞（都市・農村交流促進効果等）

・活性化施設「季多楽（きたら）」の運営主体である「伊豆市グリーン・ツーリズム推進連絡会」が、地域経済の活性化を目指し、地域資源を活かした都市農村交流の推進を実施している。

・活性化施設での地場産品直売や体験、農村公園を活用したイベント開催等、観光とも連携し交流人口の拡大が図られている。

・季多楽が活動拠点となり地場産品の販売や加工など６次産業化にも取り組み、売上も増加し地域経済の活性化にも貢献している。

事業により整備された施設の管理状況

・農業用排水路、農道、集落道、集落排水：施設管理者である伊豆市により適切に管理されている。
・農地：担い手農家への集積も図られ、農業者により管理されている。
・農村公園：地元の自治会等へ管理委託されている。
・活性化施設：施設管理者である伊豆市観光協会中伊豆支部（伊豆市グリーンツーリズム連絡会）により適切に管理されている。
（活性化施設「季多楽」の利用人数 平成16年：19,549人 → 平成28年：38,888人＜計画：16,800人＞）

事業実施による環境の変化

（１）農業生産力の強化について
・生産基盤整備により用排水管理の省力化や農作業時間の短縮が図られ、優良農地としての流動性が高まり、担い手への集積が図られた。
（受益地内の認定農業者への集積：0ha(H16)→12.03ha(H29)）
・農作業の省力化により営農意欲も向上し、特別栽培米(減農薬・減肥料)「伊豆の恵」の栽培面積拡大や新たな特産品開発に向けた大豆栽培など農業振興が図られている。

（２）農村生活環境の変化について
・農道・集落道の整備により、分断されていた農地や農村集落が結ばれ観光シーズンや週末等に混雑する県道の迂回や集落間の移動がスムーズとなり、地域住民の利便性・安全性向上が図られた。
・活性化施設整備により、地場農産物の販売や加工・商品化(６次産業化)が可能となり売上が増加することで地域経済の活性化と農業者の所得向上に寄与している。
（活性化施設開業時(H16)：売上額　約11,000千円 → 現在(H28)：売上額　約28,000千円）

社会経済情勢等の変化

（１）地域社会の動向
・伊豆市は、東京オリンピック・パラリンピック2020大会自転車競技開催地として交通ネットワークの整備も進められ国内外との交流拡大による地域活性化が期待されている。
・地域内には、ぶどう栽培と醸造を行う「中伊豆ワイナリー」や「中伊豆市民農園」、「萬場の滝キャンプ場」など観光資源も多数あり、これらと農業を連携したまちづくりが進められている。
同地域は「ふじのくに美しく品格のある邑」に「日本一の水わさびの邑」として登録されている。

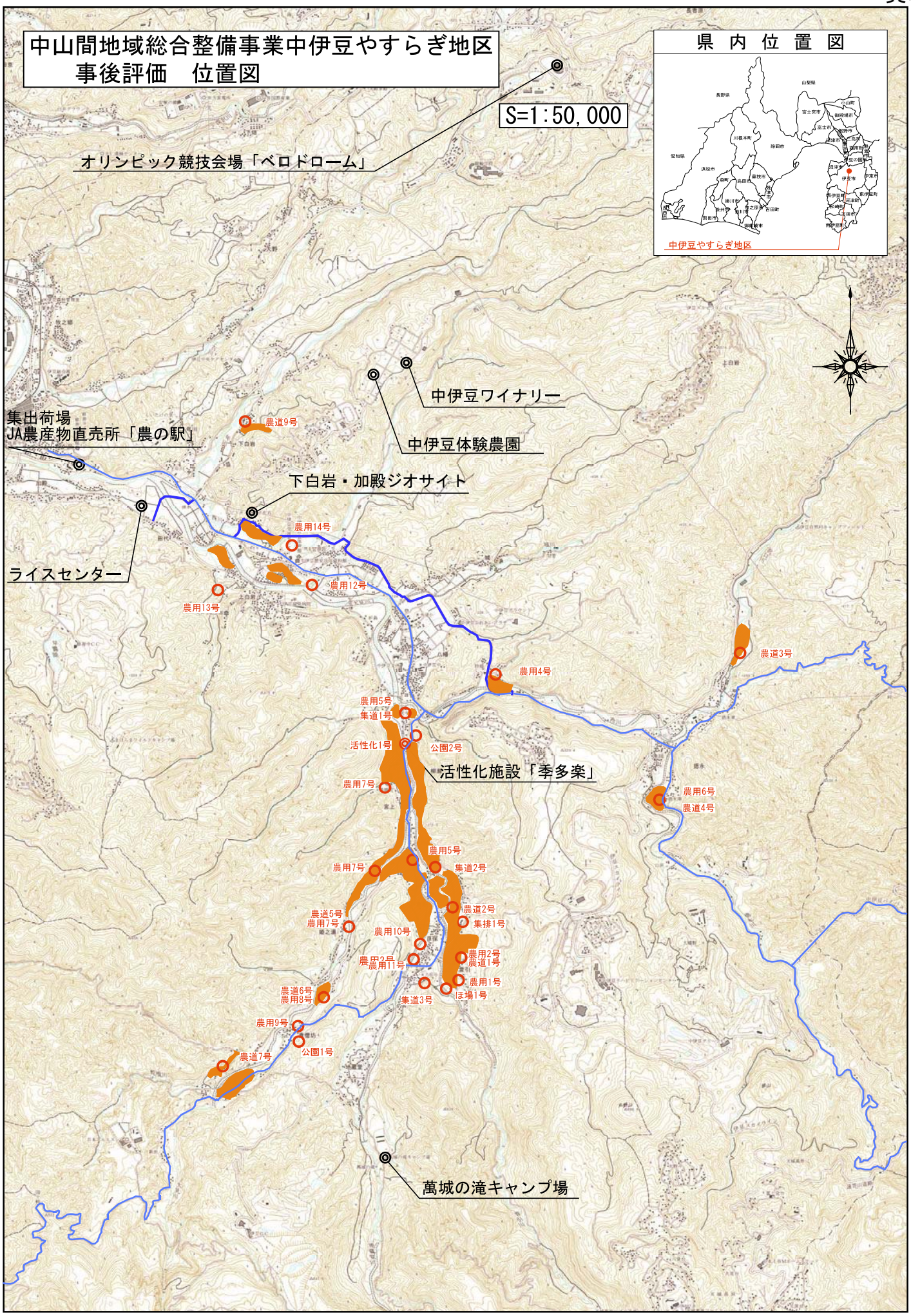
（２）地域経済の動向
・平成30年３月に「静岡水わさびの伝統栽培」が世界農業遺産に認定された。日本食のユネスコ無形文化遺産とも関連し農と食のブランド力アップにより、更なる農業・観光振興が期待されている。
・平成30年4月に「伊豆半島ジオパーク」が世界ジオパークに認定された。地域内にはジオサイトに指定されているわさび田(県棚田等十選選定)、県指定天然記念物の地層など自然資源にも恵まれ近年来訪者も増加している。

対　応　方　針　（案）

（１）評価結果
・事業効果は発現しており、改善措置の必要はない。
・農道、ほ場整備による営農労力の軽減が営農意欲の向上につながり、大豆や地域ブランド米「伊豆の恵」の栽培が広がる等、特色ある農業が継続的に行われている。
・活性化施設では、情報発信機能を発揮し農業と観光の連携により交流人口が増加している。
・地場産品の販売や６次産業化に取り組み、地元の雇用創出や売上の増加など地域経済の活性化に貢献している。

（２）今後の課題等
・地域の特産であるわさびの生産力強化に向け、営農の省力化に寄与するほ場内作業道(モノレール)の整備など、地域特性を踏まえた基盤整備が必要となっている。

（３）同種事業への反映等
・生産基盤整備による営農の省力化・効率化は、担い手への農地集積に寄与し荒廃農地の発生抑制にもつながるため、県内の中山間地域においても、地元の意向を踏まえて、豊かな自然を活かした地域活性化、農村振興に取り組んでいく。
・伊豆市全域で、わさび田の整備を中心とした後継事業「中山間地域総合整備事業『みらい伊豆地区』を推進している。世界ブランドとなったわさびを活かし、観光との連携を更に強化していくため体験や見学など生産地(生産者)と観光客をつなぐ仕組みづくりを構築していく必要がある。


中山間地域総合整備事業中伊豆やすらぎ地区
事後評価　位置図
S=1:50,000
県内位置図
中伊豆やすらぎ地区
オリンピック競技会場「ベロドローム」
中伊豆ワイナリー
中伊豆体験農園
集出荷場
JA農産物直売所「農の駅」
下白岩・加殿ジオサイト
ライスセンター
活性化施設「季多楽」
萬城の滝キャンプ場
農道9号
農用14号
農用12号
農用13号
農用4号
農道3号
農用5号
集道1号
活性化1号
公園2号
農用7号
農用6号
農道4号
農用5号
集道2号
農用7号
農道2号
集排1号
農道5号
農用7号
農用10号
農用2号
農道1号
農用2号
農用11号
農用1号
ほ場1号
集道3号
農道6号
農用8号
農用9号
公園1号
農道7号

中山間地域総合整備事業中伊豆やすらぎ地区　事業効果説明資料

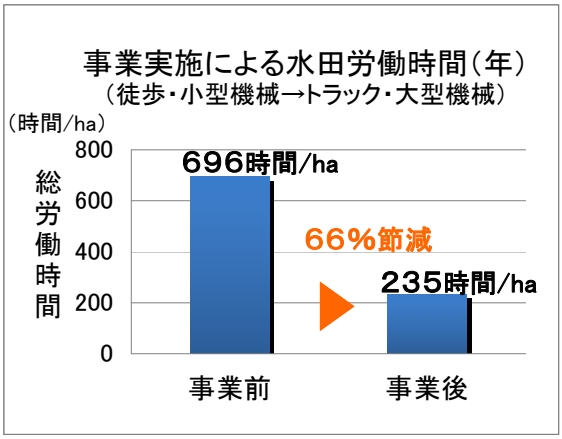
●事業効果の発現状況

食料安定供給確保効果

農業基盤整備（農道）

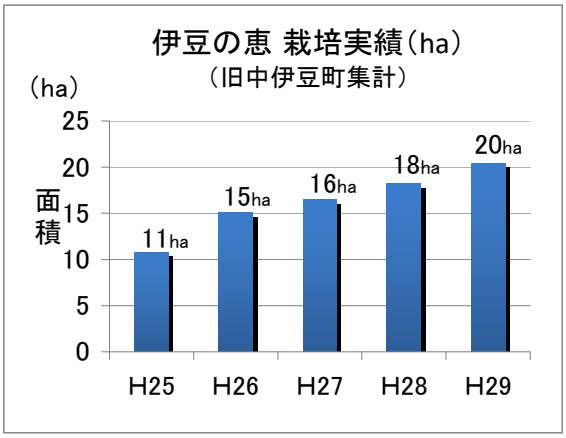
【事業実施前】
未舗装で狭福のため農産物の運搬等に多大な労力が必要

【事業実施後】
機械の導入が可能となり営農労力が大幅に省力化



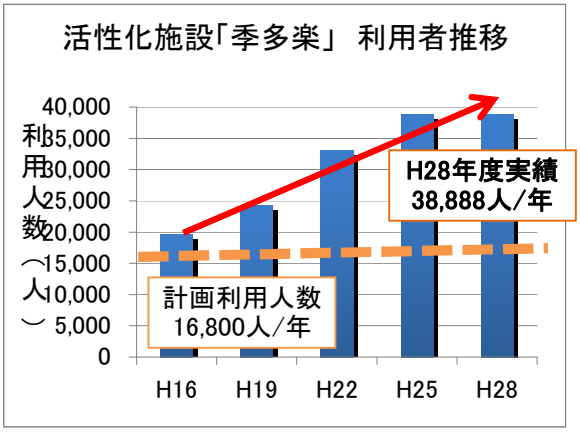
特別栽培米「伊豆の恵」

農作業の省力化に伴う営農意欲の向上により、「しずおか食セレクション」にも認定（H28）された低農薬の特別栽培米「伊豆の恵」の栽培が拡大した。



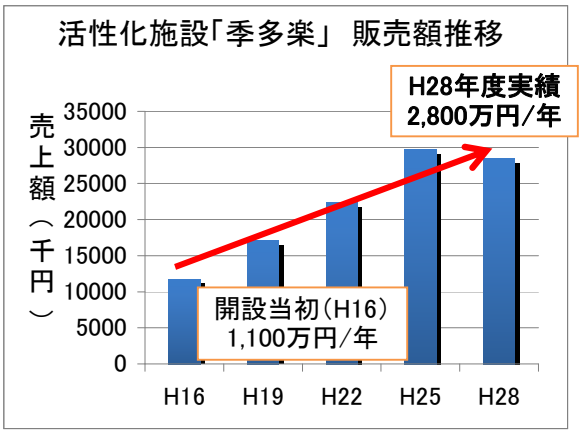
多面的機能確保効果

活性化施設「季多楽」での『地産地消フェア』



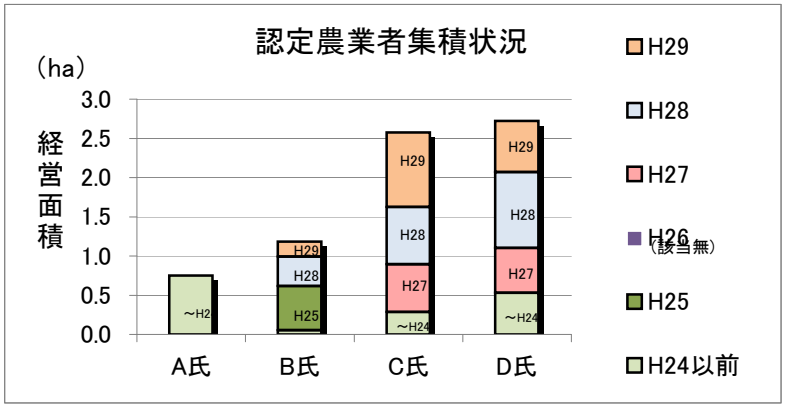
新米フェアでの
わさび丼の販売

地場の素材を使用した加工品



●事業実施による環境の変化

ほ場整備、農道整備などにより担い手・認定農業者への農地集積が進むなど荒廃農地の発生抑制が図られた。
受益地内の不作付け農地率は、1.3%に抑えられている。



■ 水稲専作
・受益地内には4名の認定農業者
・事業完了後(H25～)着実に集積が促進

■ わさび＋水稲複合経営
・受益地内には5名の認定農業者
・事業により水稲の労力が省力化され主体のわさび栽培へ労力移管

●社会経済情勢等の変化

伊豆半島 世界ジオパーク
ユネスコ認定、国内9地域目
大地形成唯一の特徴

「静岡わさび」世界農業遺産
FAO認定 伝統の栽培評価
史上最大の

「中伊豆ワイナリー」
連携の農ツアー

ふじのくに
美しく品格のある邑
Charming and Graceful Villages in "FUJINOKUNI"

地元産大豆・豆腐つくり体験(季多楽)

中伊豆農山漁村振興推進協議会